

1998年に世界的にサンゴの白化現象がありました。白化現象とは、サンゴ個体のポプリから褐虫藻が抜け出す現象です（詳しくは新聞7/9号参照）。ここまででは前回のサンゴ特集に掲載されています。

それから3年後の2001年の夏、琉球列島のサンゴ礁で、再び規模が大きい白化現象が見られています。ようやく新しいサンゴの定着が確認され始めたものの、回復の兆しはとて十分とは言えないところへの追い打ちである。

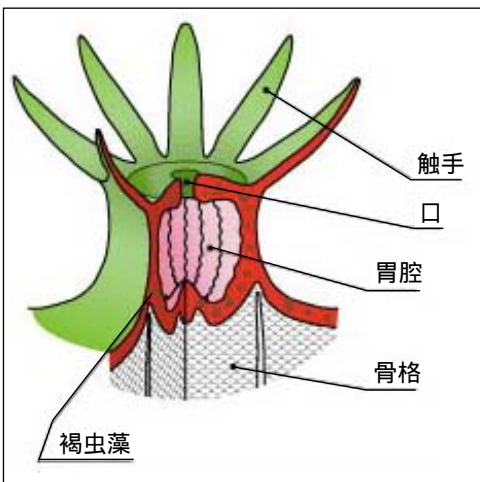
白化現象は水温があると前回紹介しましたが、最近では、地球環境の変化が原因である可能性が高いと考えられています。1998年に起きた世界規模での白化現象は、サンゴたちが「地球の環境がおかしくなっている」と人間に対して警告を伝えてきた。時をおかずして再びこのような現象が見られたという事は、人間の施策のなさにいらだちをおぼえているのだろうか？

白化現象再び

一昨年の暮れに、この新聞でサンゴを3回に渡って特集しました。サンゴの特徴から白化現象により被害を受けているなどです。今回はその後のサンゴの状況とサンゴの成長・一生などわかりやすい図を見つけたので紹介します。

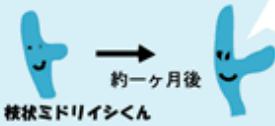
サンゴ礁からの警告

ポプリ（サンゴ個体）



地球環境の変化に対するサンゴの適応が間に合わなければサンゴは死亡し、サンゴ礁が壊滅的な攪乱を受けることは間違いない。サンゴ礁は、漁場としての機能、多種多様な生物を共存させる機能、環境浄化の場としての機能、防災機能、美しい景観が有する機能、教育研究の場としての機能、さらに地球環境変動の指標としての機能、など多様な機能を有している。サンゴ礁が大きな攪乱を受けることはこれらの機能が減少あるいは消滅することを意味している。（一部、日本サンゴ礁学会白化特別委員会委員長 土屋誠さんの言葉を引用しています。）

サンゴの成長



早く大きくなって場所取りに勝つんだ！

枝状ミドリイシは、一ヶ月になんと1~2cmも成長する。しかも四方八方に伸びていくので1年では、かなり大きくなる。でも塊状のサンゴ類は1年間で、数mm成長するかどうかだ。



直径3~4mの塊状ハマサンゴは数百年も成長し続けている。まるで年輪を刻む大木だ。この年輪のようなもので昔の天気や水温などもわかる。

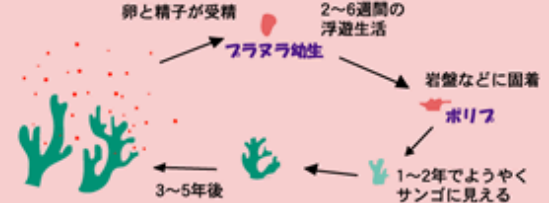
サンゴ同士のケンカに強い塊状サンゴくん



サンゴの一生

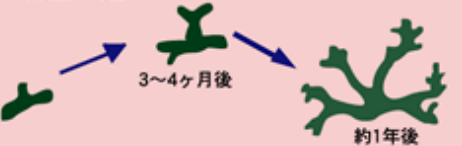
代表的なものは有性生殖と無性生殖です。このように毎年たくさんの子供を作って、自分でも折れたところから大きくなれる。

有性生殖



ミドリイシの仲間は、5~6月頃の夜間の満潮時に産卵する。翌日は海の表面が赤くなる程の量だ

無性生殖



折れたものからも伸びてくる。植物みたいだね

PRIVATE